西いぶり定住自立圏の取り組み

▼問い合わせ
企画調整グループ
（☎㉟1122）

全国的に人口減少が進むなかで、一つの市や町が、暮らしに必要なあらゆる機能を整備することには多くの課題があります。

そこで、圏域の中心市の都市機能を活用するとともに、中心市と近隣市町村の役割分担のもと、相互に連携・協力し、圏域として、住民サービスの向上や地域の活性化など必要な生活機能を確保し、魅力ある圏域を形成することが求められています。

登別市・室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町の西胆振6市町では、平成22年に『西いぶり定住自立圏』の協定を結び、多くの分野で連携しながら、住民の安全安心な暮らしとサービス向上に向けたさまざまな取り組みを行ってきました。

主な取り組み

医療機関同士で診療情報を共有できるネットワークの構築

病院や診療所などの間で、患者の同意を得た診療情報を電子データで共有できるシステムネットワークを構築し、現在、西胆振地域の40以上の医療機関が参加しています。

電子データの共有により、転院などの場合でも、継続性のある適正な医療を提供でき、患者や医療従事者の煩雑な手続きの省力化が図られています。

防災協定の締結

大規模災害や有珠山噴火に備え、物資の提供や職員派遣、被災者の受け入れなど、西胆振6市町が相互に連携し、支援協力する協定を結び、防災体制の充実強化を図っています。

広域観光の推進

全国有数な温泉地や世界ジオパーク、縄文遺跡群、工場夜景など特徴的な観光資源を活用した観光プログラムなどを開発するとともに、北海道登別洞爺広域観光圏協議会を中心とした統一的な情報発信やプロモーション活動を行うなど、広域観光の推進に取り組んでいます。

図書館ネットワークサービス

登別市・室蘭市・伊達市の図書館では、図書情報のネットワーク化により、各市の利用者カードで3市が所蔵する図書を借りることができます。

また、借りた図書は、3市の図書館のどこでも返却することができ、住民の利便性の向上につながっています。

▲多様なニーズに応え、さまざまな本を設置している『市立図書館アーニス分館』

新たな取り組み

定住自立圏を形成した平成22年に約20万人いた人口は、平成27年には約19万人になり、今後も減少が続くことが見込まれます。人口減少を抑制し、将来にわたって安心して暮らせる地域を実現するためには、さらなる圏域の魅力が必要であり、今年3月には新たに取り組む分野を追加するなどの協定の変更を行いました。

今後、新たに連携していく取り組みの一部を紹介します。

地域企業の販路拡大支援の取り組み

全国的に知られていない優れた特産品を個別にPRするだけではなく、バラエティ豊かな西胆振地域の特産品として発信することで、さらなる魅力アップにつなげます。

クラウドファンディングの活用や全国各地の商談会への出展など、地元企業のチャレンジを西胆振全体で支援することで、発信力を強化し販路拡大につなげていきます。

※クラウドファンディングとは、製品・サービスの開発やアイデアの実現などのために、インターネットを通じて不特定多数の人からの出資や協力を募る手法です。

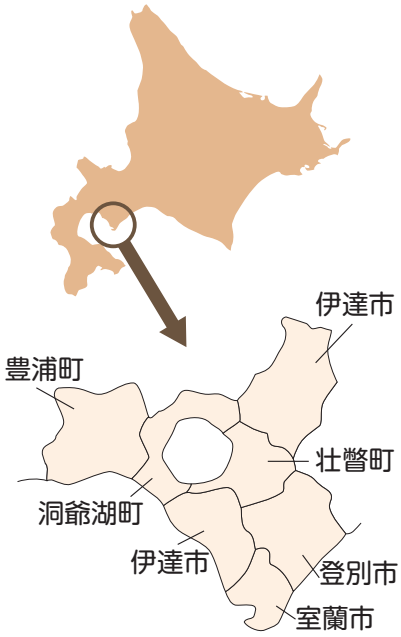
『生涯活躍のまち構想』を通じた多世代の移住促進の取り組み

西胆振地域は、医療・介護が整っている移住候補地として、全国的に注目されています。元気な高齢者（アクティブシニア）をはじめとする多世代の移住促進につなげるため、『日本版CCRC・生涯活躍のまち構想』に圏域全体で取り組みます。

5月には、6市町による『西いぶり生涯活躍のまち構想推進協議会』が発足し、地域の特性を活かした構想づくりを進めています。

定住自立圏とは？

医療や商業など一定の都市機能を有する『中心市（＝室蘭市）』と近隣の市町が協定を結び、連携と役割分担のもと、『定住』に必要な諸機能を確保するとともに、地域資源を活用した経済の活性化と交流の促進を図り、圏域として魅力あふれる地域の形成を目指すものです。



▲西いぶり定住自立圏の構成市町